

平成20年度中間決算の概要について

平成20年12月18日  
(社)第二地方銀行協会

会員行の平成20年度中間決算(単体)の概要は以下のとおり。

(注)計数は平成20年9月末時点の会員行45行ベース。

1. 損益概況(業務純益:1,087億円、経常利益:264億円、中間純利益:194億円)

平成20年度中間決算における業務純益は、国債等関係損益の悪化に加え、資金利益や役務取引等利益の減少、一般貸倒引当金繰入の増加もあり減益(前年同期比42.3%)となった。

経常利益は、個別貸倒引当金繰入等の与信費用の増加や株式等関係損益の悪化から赤字に転じ、これを受け中間純利益も赤字となった。

2. 業務純益の状況

(1) 資金利益(5,072億円、前年同期比218億円、4.1%)

資金利益は、前年同期比4.1%減少して5,072億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金(平残)が増加したものの、預貸金粗利鞘の縮小から同2.3%減少して4,102億円となった。

また、有価証券利息配当金は、投信の配当収入の減少等から同8.3%減少して975億円となった。

(2) 役務取引等利益(380億円、前年同期比111億円、22.6%)

役務取引等利益は、保険窓販業務に係る手数料収入が増加したものの、相場環境の悪化のもとで投信窓販業務に係る手数料収入が減少したことを主因に前年同期比22.6%の減益となった。

(3) その他業務利益(370億円、前年同期比296億円の悪化)

その他業務利益は、国際的な金融市場の混乱の中で国債等関係損益が悪化したことから、370億円の損超と前年同期比296億円の損超幅拡大となった。

(4) 経費（3,809 億円、前年同期比 1 億円）

経費は、人件費、物件費とも前年同期並みに止まった。

3 . 不良債権処理の状況

不良債権処理額は、取引先企業の業況悪化等を背景に貸倒引当金繰入や貸出金償却が増加したことから、前年同期比 +64.4%増の 1,492 億円となった。

この間、金融再生法開示債権（破産更生等債権、危険債権、要管理債権）は、破産更生等債権を中心に平成 20 年 3 月末比 +7.8%増加して 2 兆 435 億円となり、同開示債権の総与信額に占める割合は同 +0.33%ポイント上昇して 4.67%となった。

4 . 臨時損益の状況（ 1,350 億円、前年同期比 752 億円の悪化）

臨時損益は、個別貸倒引当金繰入の増加や保有株式の減損処理等に伴う株式等関係損益の悪化から前年同期比 752 億円の悪化となった。

5 . 単体自己資本比率（9.24%）

単体自己資本比率は、リスク・アセットが減少したものの、有価証券の評価差損の増加や利益剰余金等の減少から平成 20 年 3 月末比 0.12%ポイント低下して 9.24%となった。また、Tier 比率は、同 0.21%ポイント低下して 6.98%となった。

6 . 預金・貸出金（未残）

(1) 預金（55 兆 6,280 億円）

預金（未残）は、前年同期末比 +4,146 億円、+0.8%増加して 55 兆 6,280 億円となった。種類別にみると、要求払預金が減少の一方、定期性預金は増加した。この間、外貨預金は為替円高を背景に大幅増加となった。

(2) 貸出金（43 兆 585 億円）

貸出金（未残）は、前年同期末比 +8,339 億円、+2.0%増加して 43 兆 585 億円となった。

以 上